

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音1】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和6年10月2日（水）

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区幟町4－15			
講 師 (肩書・氏名)	川上統（エリザベト音楽大学准教授） 三村真弓（エリザベト音楽大学教授） 三宅悠太（エリザベト音楽大学講師） 福原之織（エリザベト音楽大学准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集	50名
			オンライン ○	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽の授業をより豊かにするポイント～ICTと音楽づくり、歌唱・合唱指導の要点、低学年の音楽表現の在り方		
研修内容の概要	①ICTを用いた音楽づくりの動向とヒント ②豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―歌唱共通教材編 ③低学年の音楽表現の在り方 ④小学校の音楽教育と人間形成		
	[学習指導要領との関連] 【小学校音楽科】「A表現」(1)「歌唱」ア、イ、ウ、(2)「器楽」ア、イ、ウ、(3)「音楽づくり」ア、イ、ウ [共通事項] (1)ア、イ		
内容と方法	① ICT機器を使用した、「音遊びや即興的に表現する」活動及び「音を音楽へと構成する」活動の活用方法や動向について、基本からAIまで理解します。（音楽創作アプリ：Song Maker、Garage Band、電子楽器：miniキーボード） ②歌唱共通教材を用いて、楽曲の魅力を実感することを起点としたアナリーゼと、子どもたちの主体的な表現を引き出す演奏法のポイント等について学びます。 ③幼児教育とのつながりに着目して、低学年の授業展開における音楽表現の特性について学びます。 ④小学校の音楽教育が子どもの人間形成に及ぼす影響について、総論的に学びます。		
到達目標	音楽づくりにおけるICT機器の活用方法、歌唱指導の要点、低学年の音楽表現の在り方と授業展開について理解し、豊かで多様な音楽教育を目指した授業展開や指導に活かせるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	ICTを用いた音楽づくりの動向とヒント	オンライン
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―歌唱共通教材編	オンライン
	14:30～15:50	低学年の音楽表現	オンライン
	16:00～16:30	小学校の音楽教育と人間形成	オンライン
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	オンライン参加：カメラ・マイクのついたIT機器 iPadあるいはPC、身近にある簡単な楽器やminiキーボードなど		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：インターネット環境、マイク・カメラのあるPC		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音2】
【分科会】小学校音楽科 **【実施日】令和6年10月3日（木）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 千住キャンパス			
	(所在地) 東京都足立区千住1-25-1			
講 師 (肩書・氏名)	石上則子（元東京学芸大学准教授）， 深水悠子（東京藝術大学特任講師）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	小学校から中学校の連携を図った音楽科の授業づくり：「声を使った音楽表現」による学びの連続性		
研修内容の概要	学習指導要領においては、校種間の連携を図り、学びを円滑に接続させていくことが求められている。表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより資質・能力が徐々に身に付いていくという、学習の特質をもつ音楽科において、校種間の連携を考えることは、子どもの学びを系統的に構築していく上で重要な課題である。そこで本研修では、「声を使った音楽表現」を柱とし、音楽科における領域及び分野の系統性を見据えた授業づくりの課題や教材研究の方法を探究するとともに、講師による具体的な実践提案を体験することを通し、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)「歌唱」ア、イ、ウ、（3）「音楽づくり」ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	本研修では、資質・能力の育成を中核に位置付け、小学校から中学校への連続性・系統性を考慮した授業づくりについて探究する。具体的には、講師の実践提案による「音楽づくり」及び「歌唱」の指導法を受講生一人一人が経験し、それを授業にどのように生かしていくかについて、教材選択や活動設定等の視点から考えていく。また、グループディスカッションを通して、中学校への接続を見通した学習を進めるための課題について理解を深め、各学校の実態に応じた連携のあり方を考察していく。		
到達目標	1 領域及び分野の系統性を見据えた音楽授業づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、「音楽づくり」及び「歌唱」の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）	参集
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～15:30	リフレクション	個人作業
	15:30～16:10	グループディスカッション	グループワーク
	16:10～16:40	まとめと質疑応答	
	16:40～17:00	視学官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食等はありません。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図1】
【分科会】小学校図画工作科 **【実施日】令和6年10月4日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	材料と場所や空間の関わり方がわかる！高学年の造形遊び「音が生まれる場所」（ICTの活用含む）		
研修内容の概要	自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方を理解し、さらにどのように材料と関わっていくか事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り、「音」をテーマに場所や空間を生かす造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない材料を使った場所や空間を生かした造形遊びの考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。		
	[学習指導要領との関連] 【小学校図画工作科】第5学年及び第6学年／「A表現」(1)ア、(2)ア、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	前半 実技講習 酒匂克之准教授 石賀直之教授 1）場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2）大学内の様々な空間を生かし、様々な材料を使って音を作り出す造形活動を行う。 3）互いの活動を見ながら振り返りを行う。 後半 理論講習 石賀直之教授 酒匂克之准教授 1）前半の実技講習と学習指導要領の関連について理解する。 2）高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う		
到達目標	○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。 ○材料と環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。 ○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。		
スケジュール			
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：材料と環境を生かした造形活動の意味	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:10	講義：グループ活動におけるICT機器の活用方法について	参集
	13:10～15:30	実技：材料と環境を生かした音を作り出す活動の実践	グループワーク
	15:40～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	受講会場で配布いたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：なし		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図2】
【分科会】小学校図画工作科 **【実施日】令和6年10月4日（金）**

担当大学名	東京造形大学				
会 場	(会場名)	東京造形大学			
	(所在地)	〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授				
対 象	小学校図画工作科担当教員等		定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	造形活動とサステナビリティ 自然材からかたちに		
研修内容の概要	いま、学校教育のさまざまな場面においてSDGsの達成に貢献する「持続可能な開発のための教育」を行うことが求められています。SDGsとは、サステナビリティ（持続可能性）を可視化するための具体的な指標です。図画工作科の授業では日頃から様々な材料に触れ、そこから発想を広げ自らの豊かな表現へとつなげています。それらの材料は単に子どもたちに与えられ消費されていくモノとしてではなく、造形活動を通して材料がもつ関係性が開かれていくコトとして学習を支え、深めていくことが重要だと考えます。このことはまた、図画工作科の学習に持続可能な社会を実現していくための理解と一役を担うことが期待されているということです。本研修では、サステナビリティの理念を具体的な実技研修をもとに図画工作科の学習にどのように生かしていけるのかについて考えていきます。		
	[学習指導要領との関連] 【小学校図画工作科】「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕（１）ア、イ		
内容と方法	学内に生息する植物を採取し、切る、煮る、たたくなどの活動を通して、植物の特性をとらえていきます。そして、自らの手でつくった材料を漉きながら成形し新たな形を生み出すこととともに、そこに自然の連鎖を確認していきます。 また、実技研修での体験とともに、社会におけるさまざまなサステナビリティを目指した活動を理解することから図画工作科の授業として主体的・対話的で深い学びにつながる授業をグループごとに構想します。そして、授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有していきます。		
到達目標	学校や地域の実態に応じて、材料とのかかわりや造形活動を通して持続可能な社会づくりへと目を向けていくとともに、児童自らの自己形成へとつながる授業づくりを構想する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・植物の採集 ・材料づくり	対面
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・漉き、成形	対面
	15:00～15:10	休憩	対面
	15:10～16:30	授業づくりの検討・発表	対面
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	汚れてもよい服装、靴の準備		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音1】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和6年9月30日（月）**

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	（会場名） 愛知県立芸術大学 （集合）講義棟第5講義室 （その他）室内楽ホール			
	（所在地） 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114			
講 師 （肩書・氏名）	愛知県立芸術大学 音楽学部教授 桐山 建志 愛知県立芸術大学 非常勤講師 長瀬 正典			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「楽器を通した西洋音楽の理解」 ～弦楽器、管楽器から音楽の魅力を探る～		
研修内容の概要	西洋音楽を学ぶ上で弦楽器・管楽器の知識は不可欠である。そこで、午前中および午後１コマ目の講義では、ヴァイオリンとリコーダーの音楽性や美的感覚の多様性を、その歴史的変遷から体験的・知識的に理解するとともに、異なる楽器に共通する特性を知る。その後の演習では、実際の演奏を通して各種リコーダーの演奏法やアンサンブルを含めた指導法を学ぶ。それにより、多様な音楽性、美的感覚を持った各種リコーダーを創意工夫しながら演奏・アンサンブルすることの教育的特性を理解するとともに、西洋音楽への造詣を深める。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第１学年、第２学年及び第３学年／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(イ)、ウ(イ)、「Ｂ鑑賞」(1)「鑑賞」ア(イ)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(イ)(イ)、ウ(イ)(イ)、「Ｂ鑑賞」(1)「鑑賞」ア(イ)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「Ａ表現」(2)「器楽」ア、イ(ア)、ウ、「Ｂ鑑賞」(1)「鑑賞」ア(イ)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	・音楽史の中でのヴァイオリンとリコーダーを多角的な視点から追求し、音楽教育における教育的特性を学ぶ。 ・バロックヴァイオリンとモダンヴァイオリンを比較して、楽器の特長からそれぞれの時代の音楽性、美的感覚を学ぶ。 ・アルトリコーダーの実技演習を通して、演奏法やアンサンブルの基礎を学ぶ。 ・アルトリコーダーのほか、ソプラノ、テナー、バスリコーダーを使用して、四重奏の基礎を習得し、楽曲を演奏する。		
到達目標	１）西洋音楽における器楽表現の特徴を歴史的変遷も踏まえ理解し、それを鑑賞指導に活かすことができる。 ２）２種類の楽器から、西洋音楽における器楽表現の音楽性や美的感覚に関する共通性を理解する。 ３）リコーダーのアンサンブルを通して、他者との調和を意識した演奏の指導方法を体験する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	弦楽器の歴史、構造、演奏法を学び、音楽全般への理解を深める	参集（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	演奏を聴き、リコーダーの歴史、種類、教育的特性を学ぶ	参集（講義）
	14:30～15:20	アルトリコーダーの実技演習を行う	参集（演習）
	15:30～16:40	ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダーを使用したアンサンブルを行う	参集（演習）
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	アルトリコーダー、ソプラノリコーダー ※どちらもご準備ください		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無 ○昼食は生協購買部ならびに食堂が営業しておりますが、お昼の時間帯は混み合いますので、ご持参いただくことをお勧めいたします		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音2】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和6年10月2日（水）**

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区幟町4-15			
講 師 (肩書・氏名)	佐々木悠（エリザベト音楽大学准教授）、三宅悠太（エリザベト音楽大学講師） 朴守賢（エリザベト音楽大学講師）、壬生千恵子（エリザベト音楽大学教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 オンライン ○	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	授業展開と指導実践のヒント～楽譜の理解、合奏・合唱の指導実践から探求の時間まで		
研修内容の概要	①音楽の源泉―楽譜：ネウマとリズムの基礎理解 ②合奏指導のポイント ③豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―歌唱共通教材編 ④探求の時間と音楽		
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①西洋音楽の根源であるネウマの理解を通して、楽譜とリズムの本質を学びます。 ②合奏指導の要点について、実際の楽曲を使用して実践的に学びます。 ③合唱指導の要点について、歌唱共通教材を使用したアナリーゼと演奏法を通して実践的に学びます。 ④探求の時間における音楽の扱いの多様性について学びます。		
到達目標	音楽の根源や捉え方を多面的に知り、生徒の関心に合わせた授業・指導実践に活かせるようになる。 合奏・合唱の指導の要点を理解し、指導実践に活かせるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	オンライン
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	音楽の源泉	オンライン（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	合奏指導のポイント	オンライン（講義）
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～15:50	豊かな演奏のためのアナリーゼと演奏法―歌唱共通教材編	オンライン（演習）
	16:00～16:40	探求の時間と音楽	オンライン （講義とグループ協議）
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：インターネット環境、カメラ・マイクのあるPC、ipadなど		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音3】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和6年10月3日（木）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 千住キャンパス スタジオA			
	(所在地) 東京都足立区千住1-25-1			
講 師 (肩書・氏名)	佐藤容子（声楽家），前田拓郎（ピアニスト），市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	日本歌曲の特徴を捉え、歌唱表現を創意工夫しよう！		
研修内容の概要	本研修では、日本の歌を教材とし、それぞれの特徴を捉えながら、歌唱表現を工夫することを目指すとともに、歌唱実践を通して、教材研究の視点や学習改善、指導改善に結びつく方法を探究する。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校音楽科】 第1学年，第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア，イ(ア)(イ)，ウ(ア)(イ)，〔共通事項〕(1)ア，イ 【高等学校芸術科】 音楽Ⅰ，音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア，イ(ア)(イ)(イ)，ウ(ア)(イ)(イ)，〔共通事項〕(1)ア，イ 音楽Ⅲ／「A表現」(1)「歌唱」ア，イ(ア)(イ)，ウ，〔共通事項〕(1)ア，イ		
内容と方法	本研修で取り扱う教材は、中学校歌唱共通教材及び教科書に掲載されている日本歌曲が中心となる。 曲にふさわしい発声や言葉の発音，身体の使い方，言葉と音楽との関わり，曲の文化的・歴史的背景などの知識，曲の解釈などについて学び，歌唱表現に対するイメージを一層豊かにし，歌唱表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感する。そして，音楽的な見方・考え方を働かせながら，思考，判断し，表現する一連の過程を大切にした歌唱活動を受講者自身も体験することを通して，歌唱表現や教材研究に関する新しい視点を発見したり，学習改善，指導改善に結び付く方法を探究したりする。		
到達目標	1 歌唱表現に関する様々な知識や技能を習得するとともに，歌唱表現を創意工夫する楽しさを味わうことができる。 2 授業改善に向けて，創意工夫を生かした歌唱表現の指導法や学習内容，教材に関して新たな視点や方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集（演習）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）	参集（演習）
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～15:30	リフレクション	参集（個人作業）
	15:30～16:10	グループディスカッション	参集（グループワーク）
	16:10～16:40	まとめと質疑応答	
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後，研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食等はありません。		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美1】
【分科会】 中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】 令和6年9月30日（月）**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町12-3			
講 師 (肩書・氏名)	大関智子 (秋田公立美術大学 美術教育センター 助教)			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○	20名
			オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「日本画の材料と表現技法」			
研修内容の概要	古くから我が国で描かれてきた日本画とはどのようなものか、技法や材料、用具について実際に素材に触れながらその特性について理解を深める。また、小作品の制作を通して基本的な制作工程を学ぶ。小作品の制作では、作品の主題を追求して表現するために、効果的な技法や材料の組み合わせを工夫し、創造的に表すことができるようにする。			
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】美術Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	日本画とはどのようなものかを知るため、歴史や表現の変遷に焦点を当てた導入の講義を行う。その後、支持体（和紙）や顔料（岩絵具、粉絵の具）、膠などの材料や用具について、実物の資料を参照にしながらその用法と特性について理解し、サムホールサイズ（227×158mm）の小作品を日本画の基本的な制作工程に従って制作する。また、学校現場における教材としての展開も視野に入れ、近年の教材化の動向についても講義の中で触れる。			
到達目標	・日本画の材料や用具、表現について知り、その特性を理解する。 ・日本画の技法や材料による効果的な表現を工夫し、作品における自身の主題を創造的に表す。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:10	オリエンテーション（趣旨説明、日程の確認など）		参集
	13:10～13:30	講義「日本画ってなんだろう？ー材料と表現からー」		参集
	13:30～16:10	小作品制作 ※適宜休憩		各自作業
	16:10～16:40	鑑賞／ディスカッション		参集
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	・エプロンなど汚れても良い服装 ・サムホールサイズ／227×158mmのスケッチ（画題は自由、水彩絵具や色鉛筆等で着彩したもの） ・その他制作資料（各自で制作の参考にしたい資料）			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード			

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美 2】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和 6 年 9 月 3 0 日（月）**

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	(会場名) 金沢美術工芸大学			
	(所在地) 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 (肩書・氏名)	畠野裕司（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	折り紙建築によるデザインプロセスの理解を深める授業の展開		
研修内容の概要	<p>本研修では中学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想や構想を練る」ことに重点を置いた授業、高等学校における「対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする」や「造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練る」ことに重点を置いた授業の展開について考える。</p> <p>具体的には、折り紙建築の制作を通して、空間認識能力を養いながらデザインプロセスを学ぶ。デザインプロセスとは課題解決のための思考と行動の一連の流れである。デザインプロセスを学ぶことで、生徒の問題解決能力や創造性を高めることに繋がる授業の展開について考察する。</p>		
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>【中学校美術科】</p> <p>「A表現」(1)イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】</p> <p>美術Ⅰ／「A表現」(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>		
内容と方法	<p>企業におけるデザイナーの仕事内容を紹介しながら、美術科で学ぶデザイン分野の内容がどのように社会と繋がっているかを理解する。さらに大学で実施しているワークショップを体験することで理解を深め、中・高の授業にどのように活かすかを考える。</p> <p>①企業のデザイナーの仕事の中でも、ディスプレイについて写真資料を用いて実例を紹介し、実社会でのディスプレイ・デザインのエッセンスを学ぶ（空間デザインの基本）。</p> <p>②折り紙建築ワークショップで基本的技法を体験する。</p> <p>③中学美術、高校美術での授業展開についてアイデアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。</p>		
到達目標	<p>①空間デザインの基本を理解する。</p> <p>②折り紙建築の基本的技法を習得する。</p> <p>③それぞれの学校の実態に合わせた空間デザインに関する授業計画を立てることができる。</p>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～12:00	講義：企業が手掛けるディスプレイ-新入社員からの中堅社員になるまで-	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	演習：ワークショップ・基礎（実技）	参集
	14:20～15:50	演習：ワークショップ・オリジナル制作（実技）	各自作業
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	全体の振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特別な道具等は必要ありません。		
特記事項	<p>○資料の配付方法：研修会当日配付</p> <p>○事前・事後課題の有無：無し</p> <p>○受講する上での環境条件等：無し</p>		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和6年10月3日（木）**

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	（会場名） 武蔵野美術大学			
	（所在地） 東京都小平市小川町1-736			
講 師 （肩書・氏名）	杉浦幸子（武蔵野美術大学芸術文化学科研究室教授） 三澤一実（武蔵野美術大学教職課程研究室教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	25名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「鑑賞」と「展示」から学ぶ、アートの「もの」「人」「場」の関係		
研修内容の概要	<p>取り巻く「人」「場」「こと」といった作品の「ステークホルダー」（作品に関連する諸要素）の関係を構築することが非常に重要であることが認識できる。</p> <p>その視点から、この研修では、以下の方法を通して、作品の造形的要素や、作品を取り巻く多様な要素を抽出し、認識し、それらを授業に活かす理念と方法を学び、鑑賞題材の開発を行う基盤をつくる。</p> <p>今回は、リアル・デジタルの作品鑑賞と、実際の作品を使った展示を通して、鑑賞教育を構成する「もの」「人」「場」の関係の構築方法について考え、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の仕方について学ぶ。</p>		
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>【中学校美術科】「B鑑賞」（1）ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>【高等学校芸術科】美術／「B鑑賞」（1）ア(ア)(イ)、イ(イ)、〔共通事項〕（1）ア、イ</p>		
内容と方法	<ul style="list-style-type: none">・鑑賞行為という「こと」の基本的考え方についての講義を行う。・実物、デジタルの作品を個人・集団で鑑賞する。<ul style="list-style-type: none">-デジタルの特性を活かして鑑賞教育をサポートする仕組みである「MUSABI100」を活用する。-作品を制作したアーティストとの対面もしくはオンラインでの授業参加を予定している。・グループワークでそれらの作品展示を考える。・鑑賞者に展示をコミュニケーションするキャプションや音声ガイドなどの作成も行う。・展示後には、全員で展示を鑑賞し、ディスカッションを行い、学びを深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・作品のよさや美しさを感じ取り見方や感じ方を深める。・作品や展示空間に関わる造形的な視点を豊かにし、展示を構成する多様な要素について考える。・展示活動を授業に活かす理念と方法を学び、学習者に合わせた鑑賞題材の開発を行えるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～11:10	研修前の操作確認・オリエンテーション(三澤)	参集
	11:10～12:10	講義：「アート作品鑑賞という『こと』について考える」（杉浦）	参集
	12:10～13:10	昼食	
	13:10～13:40	演習：「実物、デジタルでの作品鑑賞ワークショップ体験」（杉浦）	参集
	13:40～13:50	休憩	
	13:50～14:20	演習：「展示のデザイン」（杉浦）	参集
	14:20～15:00	演習：「展示作業」（杉浦）	参集
	15:00～15:50	演習：「展示発表と講評」（杉浦・三澤）各チーム10分	参集
	15:50～16:00	講義：まとめ	参集
	16:00～16:30	講義：まとめ「学習指導要領上の位置づけについて」（三澤）	参集
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特になし		
特記事項	<p>○事前・事後課題の有無： 事前に意識調査アンケート課題を予定。事後課題なし</p> <p>○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○受講する上での環境条件等： 特になし</p>		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工1】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和6年9月30日（月）**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	（会場名） 秋田公立美術大学			
	（所在地） 秋田県秋田市新屋大川町1 2－3 秋田公立美術大学			
講 師 （肩書・氏名）	秋田公立美術大学 美術教育センター 教授・尾澤 勇			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	錫による、技法・表現の可能性　―鍛金皿の制作を通して―		
研修内容の概要	<p>錫板を用いて、鍛金技法により皿等の制作を行う。錫は毒性のない金属として昔から食器などに使われてきた。錫板は、金鋸などで加工しても加工硬化せず、焼き鈍し工程を経ることがなく、変形加工を続けることができる。焼き鈍し後の希硫酸などによる酸化皮膜除去もいらない。木臼や砂袋に木槌などで打ち込むことにより、器状にすることが容易で、鍛金に必要な当金などの専門の道具が無くても、プラスチックや木の当て道具を工夫することで、鍛金の皿や器まで制作することができる。上品な銀色で、鋸目や表面のテクスチャーも工夫しだいで様々に表現することができる。融点も231.9℃と低くステンレス鍋で容易に融解することが可能である。鋳金・鍛金表現に広く用いることができることから「錫」は魅力ある工芸材料であるといえる。</p> <p>中学校や高等学校の生徒に、使う目的や条件などを基に、使用する者の立場や生活や社会の中での使用も考えながら、自己への思いや他者への願いを実現することのできる題材に発展させることができる。</p>		
	[学習指導要領との関連]		
	【中学校美術科】 「A表現」(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(ア)(イ)、「共通事項」(1)ア、イ 【高等学校芸術科】工芸Ⅰ 「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「共通事項」(1)ア、イ		
内容と方法	<p>オリエンテーション：鍛金と金工の教材化について（錫の熔融と板金制作の実演を含む）</p> <p>①使用用途を考え主題を生成し発想や構想を行い、錫板を無駄なく使用し、皿や器の形状を考え材料取り（外形を野書く）を行う。（皿や器の外形はあまり鋭角状な図案は避ける。）</p> <p>②錫板に外形図案を写す。</p> <p>③金切鋸（万能鋸）や糸鋸で切り抜き、外形の端面を鑢でバリを取り滑らかにする。</p> <p>④砂袋や古雑誌などを敷き、その上から木槌などで膨らみをつける。</p> <p>⑤金床や様々な形状の当金などを敷き金鋸でならしたり、鋸目や鑿などで装飾模様をつけるなどして完成に近づける。</p> <p>⑥耐水ペーパーで端面を研磨したり端打ち等を施したりし、全体にコンパウンドを付けて研磨して完成する。</p> <p>⑦受講教員同士でこの課題の授業への応用に対して、ディスカッションする。</p>		
到達目標	錫板を用いた鍛金の皿等の制作を通して、実際に授業に展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）オリエンテーション及び 錫の熔融と板金づくり（実演）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午後の部）発想や構想をし、錫板に外形図案を写す	参集
	13:30～14:30	外形図案を基に切り抜き、膨らまし作業を行う	各自作業
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:15	金鋸によるならし、装飾紋様付け。	各自作業
	15:15～15:50	切削、研磨等仕上げ、感想用紙を記入する。	各自作業
	15:50～16:40	作品講評（受講教員同士のディスカッション）及び振り返り	グループワーク
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	教材：錫板2枚、感想用紙 各自の持ち物：軍手、作業しやすい服装		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード		

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高二】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和6年9月30日（月）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学美術学部中央棟及び金工棟1階 鍛金研究室・絞り場 (D-102)			
	(所在地) 台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	丸山智巳 (美術学部工芸科鍛金研究室教授) 志村和彦 (美術学部工芸科鍛金研究室教授) 岩崎裕純 (美術学部工芸科テクニカルインストラクター) 塩見亮介 (美術学部工芸科テクニカルインストラクター) 瀧澤花織 (美術学部工芸科教育研究助手) 鎌田 晶 (美術学部工芸科教育研究助手) 渡邊五大 (美術研究科美術教育研究室教授)			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科 (工芸) 担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	金鋸による造形（鍛金）ー鍛造技法によるカトラリー制作ー		
研修内容の概要	本研修では、金属工芸・鍛金の根幹となる伝統技法のひとつ、鍛造技法を体験する。鍛造技法は金属の塊を金鋸で叩いて成形していく技術で、日本の刀剣制作やヨーロッパ諸国等の門扉に見ることが出来る。制作の工程では、ガスバーナーでの焼鈍加工や鍛造加工をすることで金属組織の変化や面白さなどを体感的に感じ取る感性が養われる。今回は、授業で実践できるように金鋸と金床のみを使用した研修とする。		
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、 「B鑑賞」(1)ア(イ)イ(ア)(イ)、 [共通事項](1)ア、イ 【高等学校芸術科】工芸Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、 「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア)(イ)、 [共通事項](1)ア、イ		
内容と方法	研修生それぞれが、サンプルを参考にしてデザインしたカトラリー（スプーン、バターナイフ、マドラー等）を制作する。真鍮の角棒を材料として金鋸で打ち延ばし、加工硬化したら焼鈍加工を行う。これを数回繰り返しながら成形していき、必要に応じて紙やすり等で研磨を行い、鋸目を生かしたカトラリーを完成させる。制作の進め方については、各講師と対話をしながら進める。実技研修とは別に、参考作品を鑑賞しながら、鍛金について理解を深められるレクチャーも行う。		
到達目標	鍛金や金属に関する材質の特徴などについて知り、それらを用いて制作する経験を通して、道具や機材の適切な扱いや安全衛生を意識した制作指導ができるようにする。また、金属工芸や金属素材のよさや美しさを感じとり、今後の授業に展開していけるように指導方法を考える。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講師紹介、ワークショップ及び工房使用説明、エスキース、実技研修	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～16:50	鍛金に関するレクチャー、実技研修	参集
	16:50～17:00	清掃、片付け	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	鉛筆、消しゴム、スケッチブック等（アイデアスケッチ用でサイズ自由） 作業着（スカート不可）、作業靴（サンダル、ヒール等は不可。スニーカーなど）、作業用手袋（軍手など）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード		

令和 6 年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工 3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和 6 年 1 0 月 4 日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192－0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	准教授 井関大介（インダストリアルデザイン専攻領域） 教授 山田猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	アイデアを形にー3Dプリンターを活用したマケット作成ー			
研修内容の概要	・ インダストリアルデザイン専攻領域教員による3Dプリンターを活用したマケット制作を通して、発想や構想を練ることから、用と美についての考察を深める。 ・ 教職課程教員とのTTにより、発想や構想を練ることから用と美について検討し、右脳と左脳、制作と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的なイメージ生成を目指し工芸の授業デザインを目指す。			
	[学習指導要領との関連] 【中学校美術科】「A表現」(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 【高等学校芸術科】工芸Ⅰ／「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	・ 用と美を考慮しながら、言語活動やアイデアスケッチを通して求める形を発想する。 ・ 発想から立体物制作に繋げるための構想を練ることから、3Dプリンターを活用してマケットを制作する。 ・ マケットから用と美について考察を深める。 ・ 研修全般を通して、右脳と左脳、制作と言語活動、個とグループ協議、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的な質の高まりを目指す。			
到達目標	3Dプリンターを活用したマケット制作を通して、発想や構想をすることを通して用と美について深く考察することで、題材開発や授業デザインに繋がる新たな気づきや視点を生み出す。その過程において、右脳と左脳、制作と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的な質の高まりを目指す。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入		参集／受講
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:45	演習①制作		参集／制作
	14:45～15:00	レクチャー②		参集／受講
	15:00～16:40	演習②制作		参集／グループワーク
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。			

令和6年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書1】
【分科会】高等学校芸術科（書道） **【実施日】令和6年9月30日（月）**

担当大学名	東京学芸大学			
会 場	(会場名) 東京学芸大学			
	(所在地) 東京都小金井市貫井北町4 - 1 - 1			
講 師 (肩書・氏名)	東京学芸大学教授 加藤泰弘 日展会員 永守蒼穹 愛知県立松蔭高等学校教諭 加藤眞太郎			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	書道教育における「漢字仮名交じりの書」の創作指導の工夫　－作品の構想と表現の工夫の視点－			
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場の課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による「漢字仮名交じりの書」の創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、新学習指導要領の趣旨と「漢字仮名交じりの書」の創作並びに授業での指導の工夫について理解を深める。			
	[学習指導要領との関連] 【高等学校芸術科】書道 「A表現」(1)「漢字仮名交じりの書」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ) 「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字仮名交じりの書」の創作）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による「漢字仮名交じりの書」の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言			
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・「漢字仮名交じりの書」における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえた「漢字仮名交じりの書」の授業並びに創作指導を工夫できるようにする。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴・教科調査官による講義
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集（研究発表）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）		参集（協議）
	14:00～14:15	休憩		
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）		参集（実技指導・演習）
	16:30～16:40	休憩		
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに指示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し			